

令和3年度 第3回 大阪府立桃谷高等学校 学校運営協議会 議事録

1. 会議日 令和4年2月28日（月） ※すべての委員から意見書を頂いた日

2. 場所 書面開催

大阪府下で新型コロナウイルス感染症が急速に拡大している状況を鑑み、令和3年度第3回会議を書面開催とした。そのため、2/2（水）に郵送および電子メールで会議資料を発送し、意見書による意見聴取とした。

3. 出席者の氏名（委員および本校関係者）

梅田 和子 委員（近畿大学特任教授）

大西 俊猛（多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部 校長）

大西 啓嗣 委員（大阪市立天王寺中学校長）

中濱 秀徳（定時制（夜間）Ⅲ部 准校長）

山口 照美 委員（大阪市生野区長）

伊藤 範子（通信制の課程 准校長）

加藤 曜子 委員（流通科学大学名誉教授）

森川 桂一（事務部長）

篠崎 静夫 委員（本校同窓会長）

安東 沙織 委員（本校PTA役員）

（事務局）

松本 厚史（多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部 教頭）

他、各課程・部の教頭および教職員数名

4. 議題

（1）令和3年度学校経営計画及び学校評価（案）について

（2）令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）について（中期的目標の承認可否）

（3）その他ご意見等

5. 学校設置の意見箱及びメールについて

【事務局より】

2/2（水）に確認をしましたが、意見箱への投函およびメールはありませんでした。

6. 協議内容（意見聴取の内容）

《多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部》

（1）令和3年度学校経営計画及び学校評価（案）について

【梅田会長】

自己評価の欄を見ると、全体的に、○や◎が多く、しっかり取り組まれたことがわかります。

特に、学習指導についての肯定的な評価90%、進路未定者の実数（割合）が大きく減少するなど、素晴らしい成果が出ていると思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

一方、学校教育自己診断（生徒）で、「学校へ行くのが楽しい」が7.5ポイント減少したことが気になります。閉部に向けて、一人でも多くの生徒が卒業できるよう、引き続き丁寧な指導に取り組んでいかれることを期待します。

【大西委員】

アンケート結果から対話的な学習が深められていると感じる。

引き続き、お取り組みいただくとともに、ICTを活用した学習形態についても体制の充実を図っていただきたい。

【篠崎委員】

閉部は大変淋しいことです。在学しているⅠⅡ部の生徒が全員無事卒業できますよう願っています。卒業後の進路、大学に進学、就職等いろいろかと思えます。皆さんが希望される事を、希望するところに行けますよう指導して下さい。

保護者には、桃谷高校、学校の状態を正確に伝えて、広く皆さんに広報の充実を図ってください。

【加藤委員】

家庭訪問を重ね、保護者等のコミュニケーションをとられており、コロナにもかかわらずそのご努力に敬服いたします。

生徒の授業評価が8割を超え高率を示し、又、進路説明会評価も94.6%と高く、学びのシステムが機能していると思います。

【安東委員】

特に無し

【山口委員】

コロナ禍でオンライン授業の充実などを進めながら、生徒のケアや教職員の指導力充実に努めていただいたことがわかります。アンケートの回収率が下がった分、個別の声を拾い上げて日々の学校運営に反映させるよう、意識していただければと思います。どうしても高校生になると保護者の関心が薄くなるのと、アンケートもスマホで手軽にできるメリットがある反面、「いつでも返せる」というとつい先送りしてしまうので、締め切り近い時期の再度のお知らせなど工夫をしてみてください。

(2) 令和4年度学校経営計画及び学校評価(案)について(中期的目標の承認可否)

【梅田会長】

(中期的目標について) 承認

閉部に向けて、生徒数や教員が減少する中、教育活動の実施に制限もあると思いますが、一人でも多くの生徒が卒業できるよう、引き続き丁寧な指導に取り組んでいかれることを期待します。

【大西委員】

(中期的目標について) 承認

※記載なし

【篠崎委員】

(中期的目標について) 承認

在籍する生徒が、卒業するための指導、発生する進路等に希望する方向について見守って下さい。

閉校を控え、生徒数が減少します。生徒会、各クラブ活動に充実した指導をお願いします。

令和4年度はコロナの中、いろいろな行事、体育祭、文化祭も中止、縮小ということにもなります。

開催されないことは淋しいことです。

秋以降コロナが収まり、各行事が行われますように。

【加藤委員】

(中期的目標について) 承認

特にありません。

【安東委員】

(中期的目標について) 承認

異議なし

【山口委員】

(中期的目標について) 承認

廃部が見えているだけに、生徒および教職員のモチベーションをどう上げていくかが問われると思います。コロナ禍で厳しいところではありますが、仲間とのつながりをつなぐ行事や機会、オンラインの活用を行い、一人ひとりの生徒の進路が拓けることを期待しています。教職員数が減って大変なところかと思いますが、要望を出したり外部の力も積極的に借りたりしながら「チーム学校」で乗り越えていただければと思います。

(3) その他ご意見等

【梅田会長】

特にありません。

【大西委員】

※記載なし

【篠崎委員】

一年半後には閉校になりますが、ⅠⅡ部卒業生は、卒業後、桃谷高校同窓会“桐友会”に入会します。同窓会では、ウォーキング、総会等を企画しています。卒業後は桐友会で活動して下さい。

【加藤委員】

※記載なし

【安東委員】

※記載なし

【山口委員】

※記載なし

【多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部 大西校長よりご意見に対する回答】

学校運営協議会委員の皆さま、昨年に続き本年度も本校の学校運営にご支援ご協力ありがとうございました。今年も対面での会議は11月の1回だけになりましたが、書面を通して丁寧なご審議ご意見をいただき心より感謝しております。さて、意見書でいただきましたご意見についてですが、内容が重複するものもありますので、いくつかの項目にまとめた回答させていただきます。どうかお許しください。

1. 令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）「中期目標」のご承認について

すべての委員の方からご承認いただきました。ご承認ありがとうございました。

2. 令和3年度及び4年度の学校経営計画及び学校評価（案）へのご意見について

① 魅力ある学校行事づくり

1年を通しての学校行事は来年度令和4年が最後になります。生徒数は少なくなりますが、文化祭や体育祭など生徒たちの意見も取り入れながら、「参加して楽しかった」と思えるように工夫を凝らし、高校生活の大切な思い出となるよう企画を進めていきたいと思えます。

② 学びの充実

授業づくりについては、ICTを活用した対話的な授業などより工夫を凝らし、わかる授業、学ぶ喜びを実感できるような授業づくり、そして単位修得、卒業へとつながるよう一層取り組んでまいりたいと思えます。

③ 進路実現に向けて

これまで桃谷高校が積み重ねてきたキャリア教育の総和として、生徒たちそれぞれの進路の実現につながるよう進路総務部を中心に進学指導・就職指導に最後まできめ細やかな指導を継続していきます。

④ 卒業に向けての生徒支援

出席状況が芳しくない生徒や連絡がつきにくい生徒に対しては、家庭訪問等を重ね、保護者ともコミュニケーションを密にしながら、卒業、単位習得、進路実現に向けてのより丁寧な指導を学校一丸となって進めていく所存です。

⑤ 組織運営について

教職員数が少なくなる中、互いに協力しあい協働し組織内の脆弱な部分「ボトルネック」を見つけ出し、その解消をはかるなどより効率的な組織運営を行います。もちろん、SSWやSC等の専門職や外部リソースと連携をより深めながら「チーム学校」としてより高度に機能していけるよう努めます。

《定時制の課程（夜間）・多部制単位制Ⅲ部》

（１）令和３年度学校経営計画及び学校評価（案）について

【梅田会長】

自己評価の欄を見ると、一部に△はありますが、全体的に、○や◎が多く、しっかり取り組まれたことがわかります。

特に、授業改善について組織的に取り組んできたことが定着し、素晴らしい成果が出ていると思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

一方、学校教育自己診断（生徒）で、「学校へ行くのが楽しい」の肯定率が低いことは気になります。授業以外の場面での生徒の満足度を高められるよう、検討をお願いします。

【大西委員】

本校でも通信教育に対するニーズ（進学）が高まっており、これからますますその傾向は高まると感じる。

ICT 機器の活用も含めて、そのシステムの拡充に向けお取り組みを深めていただきたい。

【篠崎委員】

年齢がいろいろある中で、授業を進めて行くということは大変かと思います。生徒会活動を通じて、活動を支援し、生徒がその事に参加し、生徒間と教職員との関係を図ることは大事かと思います。外国籍の方、ネパールの人、アジアの人が入学することは将来的にあると思いますが、実情として、言葉、習慣等いろいろな問題があるかも！！

【加藤委員】

・生徒の自己診断結果の安定率が、R2 の 70%台が、90%台にあがり、教員の工夫や改善の効果の表われと思いました。

・保護者の学校に対する参加項目が３割と低い理由は何かを知りたいと思いました。

【安東委員】

特に無し

【山口委員】

コロナ禍で通常の学校運営が厳しい中ではあるが、全般的に肯定的な回答が上がっている点は教職員のみなさんの努力の成果だと考えます。特にコミュニケーションの部分で生徒の満足度が高く、個別に話を聞き対応していることがよくわかります。地域との連携した取り組みは、感染対策が優先されるためなかなかできない場面もありますが、生野区の産官学地域連携の学びのネットワーク「IKUNO 未来教育ネットワーク」にご参画いただく中で、何か支援できればと思います。

(2) 令和4年度学校経営計画及び学校評価(案)について(中期的目標の承認可否)

【梅田会長】

(中期的目標について) 承認

授業改善について、これまでの取り組みに加えて、1人1台端末を活用したより魅力的な授業改善に取り組まれ、生徒の学びに向かう意欲をさらに醸成されることを期待します。

併せて、授業以外の場面での生徒の満足度を高められるよう、検討をお願いします。

【大西委員】

(中期的目標について) 承認

※記載なし

【篠崎委員】

(中期的目標について) 承認

学力の育成・魅力的な授業をめざし、一人一台の端末の活用取組みを推進してください。タブレットの使用が授業において活用できるよう。

人権教育の実施するにあたり、人権の大切さについて学ぶ機会を図る。命の大切さ、そのルールについて偏見のない、社会の一員として、この人権については、通信制の学校としては生徒にも十分に方法として、自覚することが一番かと思う。

【加藤委員】

(中期的目標について) 承認

特にありませんが、次代を支える教員の育成も期待したいです。

【安東委員】

(中期的目標について) 承認

異議なし

【山口委員】

(中期的目標について) 承認

1人1台学習端末の活用がカギとなりますので、まず教職員同士が学びあい、効果的な活用を推進していただければと思います。生徒に対する、カウンセリングマインドを基にした生活指導や生徒とのコミュニケーションの充実は一定の成果を挙げているので、引き続き取り組み生徒の意欲を引き出していただければ幸いです。

(3) その他ご意見等

【梅田会長】

特にありません。

【大西委員】

※記載なし

【篠崎委員】

Ⅲ部は、卒業すると言うことは大変かと思います。一人でも多くの方が卒業を目指して下さい。

【加藤委員】

※記載なし

【安東委員】

※記載なし

【山口委員】

今後、外国籍の若者の増加も想定されるので、大阪わかば高校や区内の「多文化共生ふらっと」などの NPO 団体とも連携した取り組みを検討されるとよいと思います。

【定時制の課程（夜間）・多部制単位制Ⅲ部 中濱准校長よりご意見に対する回答】

令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）「中期目標」について、すべての委員の方からご承認いただき、ありがとうございました。ご意見に対する回答は以下の4点です。

1. 授業や個別対応の評価が高い中で「学校へ行くのが楽しい」の肯定率を上げるため、授業以外の学校生活の場面で生徒が楽しめる時間をどう創出するかというところに課題意識をもって取り組んでいきたいと思います。
2. 保護者の学校に対する参加項目の肯定率については、活動制限の解除とともに改善が見込まれますが、「進路だより」に保護者向けの情報を盛り込むなど、保護者も意識した学校からの情報発信ができればと考えています。
3. ICT 機器の活用については、機器等の環境整備は「情報環境チーム」、機器を活用した授業づくりは「授業研究チーム」が担うという校内体制で取り組むことにしました。（現存の「新カリ検討チーム」「観点別評価検討チーム」「校内 ICT 推進チーム」の3チームは「情報環境チーム」「授業研究チーム」に再編しました）
4. 地域との連携（外部資源の活用）については、国籍や年齢が多様な生徒が在籍する中で、個々の対応（カウンセリングマインド）に優れているという強みを生かして取り組みを進められたらと考えています。

《通信制の課程》

(1) 令和3年度学校経営計画及び学校評価（案）について

【梅田会長】

各種会議が情報交換と課題検討の場として機能していくことは、学校として組織的に取り組んでいくために大事なことだと考えます。引き続き、よろしくお願いします。

ICT化については、学校教育自己診断（生徒）の意見にもあるように、生徒の学習の状況などが確認できるシステムも構築していく必要があるのではないのでしょうか。

【大西委員】

アンケート結果では、10ポイントを超える増加傾向が複数の項目でみられ、先生方の日常のきめ細やかな対応や指導の様子が伺える。

今後も引き続きご尽力いただきたい。

【篠崎委員】

通信制で学ぶ生徒の実態や卒業迄の学校の指導のあり方について、卒業予定者の卒業率 75%以上をめざすとあるが、令和3年度の卒業率は何%だったのか。30%近くの人が卒業していないという現状です。

卒業後の進路指導の充実。進学及び就職予定者に対する支援。定職に就かない卒業生が多いと聞いています。そのような卒業生に対するケアはどうするのか！！？

【加藤委員】

・スクーリングに出席の困難な生徒のサポートとして、ICTのための教員向け研修会もされ、進み出されたことを評価したい。

・ドロップアウトを再び不登校児がしない為にも、SNSを使い、より密にとり続けることが求められると思います。

・私立ではなく、公立の通信制の「つよみ」は何かを明確にしつつ、それを伸ばしていただければと思います。

【安東委員】

特に無し

【山口委員】

情報発信や業務改善にICTを取り入れ、徐々に成果を挙げてきていると思います。レポートや単位の管理も、今後はさらに効率化が進むと思われます。一方、自ら意欲的に学ぶモチベーションをいかに保つかが通信制課程のポイントになりますので、コロナ禍でスクーリングや行事が難しい部分をどう補っていくかが、次年度以降もテーマになると思われます。教職員研修も進めていただき、スクーリングの質向上につなげていただいているようで期待が持てます。

(2) 令和4年度学校経営計画及び学校評価(案)について(中期的目標の承認可否)

【梅田会長】

(中期的目標について) 承認

これまで桃谷高校の通信教育が大事にしてきた部分を踏襲しながら、さらに「よりよい通信教育」の提供ができるよう、検討を進められることを期待しています。

【大西委員】

(中期的目標について) 承認

※記載なし

【篠崎委員】

(中期的目標について) 承認

生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討導入について。

主体的に学習に取り組む生徒の育成とありますがどのようにするのか？

生徒支援と相談体勢について

通信制の学生は、年令の幅もあるだろう。一人一人の卒業迄単位の取得も違うと思う。学校生活を楽しくするということは、友人を作る、学校の支援もあると思う。保障すると言ってどのようなことを言っているのか。桃谷高校は校風も自由でややもすればそれが桃谷高校の良い所である。

【加藤委員】

(中期的目標について) 承認

「主体的に学習に取り組む生徒」の育成については、とても大切なポイントだと思いますので、1つの成功モデルを目標に、生徒をバックアップしていただきたいと思います。

【安東委員】

(中期的目標について) 承認

異議なし

【山口委員】

(中期的目標について) 承認

通信制高校は増えているが、いかに公立ならではの魅力を発信するか、生徒の学びを保障し進路につなげるかを問われる時代になっていることを自覚し、次年度の計画にしっかり反映されています。ICT活用において公立はどうしても後手に回る傾向がありますので、スクーリングや行事の効果を打ち出しながら、ICT活用にも積極的に取り組んでください。また大阪府立高校や地元との連携においては、民間にできない資源を持っていますので、確実に力を伸ばす指導力と視点を広げる学びの提供を心掛けていただければ幸いです。

(3) その他ご意見等

【梅田会長】

特にありません。

【大西委員】

※記載なし

【篠崎委員】

高校を卒業するということであれば、私学の通信制が全国ネットワークの中い面もあるのか。費用の面を考えると私学のほうが、桃谷（公立）高いと思う。桃谷は公立の良さをもっとアピールすることはできないのかな。テレビで宣伝している私学の卒業迄の料金はいくらかかるのですか？

【加藤委員】

※記載なし

【安東委員】

※記載なし

【山口委員】

※記載なし

【通信制の課程 伊藤准校長よりご意見に対する回答】

(1)「令和3年度学校評価」について

ご質問にありましたR3年度の卒業予定生における卒業率は74%でした。25%の生徒が卒業できなかった理由は、仕事や家事の多忙や病気の悪化など様々ですが、中には毎年、「進路が決まらない」「社会に出る自信がない」などの理由で卒業を延期する者もいます。第1回の運営協議会でご報告したとおり、R2年度末の卒業後の進路は、進学24%、就職43%（アルバイト含む）、残りの33%は浪人、家事、病気療養など様々です。（R3年度の状況は4月にまとまります。）

卒業後の指導は特に実施していませんが、心配な生徒については、在学中にSSWやCCとの面談を通してできるだけ社会と結びついていられるよう個別に対応しているところです。

2月26日（土）に卒業式がありました。「答辞」を読んだ生徒は「『生徒協議会』や『友情の会』といった特別活動を通じて、下ばかり見ていた自分が前を向いて歩けるようになった。」と語っていました。彼女の高校生活の2年間は、コロナ禍で活動が制限される中でしたが、これまでの行事の在り方を見直したり、新たな行事を立ち上げたり、と充実した活動ができたようです。実は「卒業率」の方もコロナ禍の方が上昇しており、逆境に強い生徒たちの底力を見る思いでした。

（２）「令和４年度学校経営計画」について

中期的目標を承認いただき、ありがとうございました。

令和４年度の新入生は、新学習指導要領で学ぶことになり、学習評価も観点別評価となります。３観点の中でも「主体的に学習に取り組む態度」はこれまでになかった新しい観点です。そもそも通信制のシステム自体が「主体的に学ぶ」ことを前提としています。「主体的に学ぶ」ためには、システムをわかりやすくしてだれもが学びやすくする必要があります。しかし、本校のシステムは「個」を重視するあまり難解なものになっています。それが学習の妨げになっているのではないか、という課題意識から、第２回でご説明したとおり次年度はレポートとテストの期限を分けることにしました。次年度はこの改革の成果を検証し、システムのわかりやすさをさらに追求していきたい、と考えています。

多くの委員にご指摘いただいたように、次年度より ICT の活用に力を入れたいと思います。今年度発足させた ICT 委員会は、業務と担当を明確にし、教科や分掌との連携を強めて組織的に運用していく必要があります。

ご質問の中に「私学との比較」がありましたが、本校では年度当初に３～４万円（教科書代約２万円として計上）あれば年間 30 単位の受講が可能です。私学だと最低でも 50 万円ぐらい必要になります。家庭の収入によりますが、大阪府在住の方で仮に就学支援金等で授業料を全額支給してもらっても約 20 万円は必要でしょう。

その強みを伝えるためには、HP の改革が急務です。現在の本校の HP は、個別の教科や分掌がそれぞれで伝えたいことを掲載しているため、交通整理ができていない状態です。統一感のある HP を作り、公立通信制の本校の強みを全面に出せれば、と思っています。

（３）最後に

学校運営協議会の皆様には、いつも温かい激励のお言葉とともに貴重なご助言をいただき感謝しております。対面の協議会は１回だけでしたが、本校へのご理解とご期待を直接、感じることができ、お会いできてたいへん光栄でした。

世界は感染症や戦争に見舞われ、人々が分断されています。こんな時代こそ、志ある人々の連帯が必要であると思います。中でも「教育」は人々を連帯させる共通のテーマであると思います。今後も桃谷高校発展のため、ご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。